

川畔の尖塔 号外

2020・12・20

「神は我々と共におられる」



牧師 米倉美佐男

マタイによる福音書一章十八―二十三節

「見よ、おとめが身こもつて男の子を産む

その名はインマヌエルと呼ばれる。」(二十三節)

クリスマスおめでとうございます。御子イエス・キリストのご降誕を心からお祝いいいたします。今年にはクリスマス礼拝もイブ礼拝も聖歌隊の讚美もハレルヤコーラスも無しにしました。出席したくてもできない方のために当日のプログラムをお届けします。出席できなくてもご一緒に同じ時間プログラムを見て家庭礼拝をお献げください。主題を「喜びを静聴す」としました。み言葉に静かに耳を傾ける時といたしました。今年には皆さんと共に過ごせる最後のクリスマスです。伝道者として一九七六年神

学校を卒業し、初任地大分の国東教会、故郷横浜の指路教会、前任地東京の聖和教会、そして二〇〇九年に札幌教会に招聘され四月就任以来今年九月に辞任するまでの四十年有余を伝道者として用いてくださった主と受け入れてくれた各教会に心から感謝します。イブの礼拝説教の冒頭で必ず紹介してきた「キリストが千度ベツレヘムに生まれても、あなたがたの心にキリストがお生まれにならなかつたらすべては虚しい」(シレシウス)という言葉は母教会横浜の神奈川教会で父のように慕った牧師から聞いた言葉です。中学生の頃でした。この言葉を聞いた時の大きなショックと喜びを伝え続けたいと思ひ語り続けてきました。

マタイの一章はキリストの系図に続きキリストの誕生について語ります。「イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。」(十八節)、そしてその誕生話は以下のような内容です。母マリアと父ヨセフは婚約中であつたが、正式な結婚前にマリアが身ごもります。真面目で思いやり深い夫ヨセフはそのことが世間に知られるとマリアにとつて不都合が生じることを案じて婚約を解消しようとしてました。マリアを守る

ために必要と思つたのでした。その時彼は夢を見ます。天使が現れ恐れずに結婚しなさいとのお告げでした。マリアの胎の子は聖霊によつて宿つたのだと。そして生まれるのは男の子、その名をイエスと名付けなさいと。それは聖書の預言が成就することだったので。夢から覚めたヨセフはお告げ通りマリアと結婚し、与えられた子をイエスと名付けました。「見よ、おとめが身こもつて、男の子を産みその名をインマヌエルと呼ぶ。」(イザヤ七章十四節)。インマヌエルは「神は我らと共におられる」という意味の言葉です。イエス・キリストの誕生の出来事はすべて神の御業であり、人が介入することはできません。ただ人は必要とされて用いられるだけです。そしてその出来事は昔から聖書が預言者を通して語られてきた神の約束の到来であつたのです。神の救いの業は必ず実現するのです。時代がどのようにに変わり、どのような状況の中であっても不安に恐れおののくことは無いのです。神の救いは揺らぐことはありません。神は我々といつも共にいてくださるのです。これ以上の恵みはありません。

ハレルヤ アーメン

米国の収穫感謝の日と

収穫感謝礼拝

板谷 研二

秋の収穫を祝う米国での「収穫感謝の祝祭」のルーツはヨーロッパにあると思いますが、米国の祝祭は多くの点でとてもユニークなものです。一六九〇年九月に米国のマサチューセッツの海岸（プリマス）へ上陸した英国からの清教徒の植民者たち（ピルグリム・ファーザーズ）は、寒さと飢餓の中で最初の冬を生き延びるために大変な困難を経験しました。

皆さまの中で冬に米国の東部に行ったことがある方は、その寒さがどんなものであるかがよくお分かりになると思います。特に田舎では、外に駐車してある車は凍てつき、建物の外に出ると骨まで凍えるような寒さを感じる日があります。この植民者たちの半数が冬の間に犠牲になったと言われていますが、その間にも彼らは神への祈りを忘れず、翌春には残りの人たちが力を合わせて作物を植えました。そしてこの年は豊年だったので、豊かな収穫の秋を迎えること

ができました。米国の「収穫感謝の日」の祝祭（感謝祭）はこの故事に由来します。彼らは神の恵みに感謝して、収穫物を頂きました。そのような訳で、米国での初期の感謝祭は、教会で礼拝を行い、神に感謝を捧げる宗教的な意味合いの強いものでした。米国では十一月の第四木曜日が「収穫感謝の日」です。現在、この日は米国連邦政府の法定祝日になっており、米国ではサンクスギビングデー（日本語訳は感謝祭）と呼ばれています。日本のプロテスタント・キリスト教会の多くは、米国の宣教師の伝道によって始められましたので、収穫感謝礼拝は十一月の第四主日に行われるようです（日本キリスト教団の場合）。残念ながら、私は米国の教会で「収穫感謝礼拝」に出席した経験がありませんので、現在、巷間で行われている、宗教的な意味合いがかなり弱くなった上記法定祝日の「収穫感謝の日（サンクスギビングデー：感謝祭）」の祝い方を書いてみましょう。十一月の第四木曜日から最低四日間またその後の有給休暇の取得により一週間は休めますので、米国中で、学生が大学やカレッジから両親の元に戻り、独立して、親元を離れて住んでいる既婚・未婚の子供たちも帰郷します。

デパートや小売店では特別セールがあります。感謝祭のディナーには必ず七面鳥とそれにかかる克蘭ベリーソースが出され、その他、サツマイモ（ヤム）とコーンを含めたもろもろの料理が食卓に並びます。勿論、教会での「収穫感謝礼拝」に出席する家族もあり、私の知っているクリスチャンの家庭では食前に感謝祭の祈りを捧げていました。しかし米国の「感謝祭」は家族の再会の時ですので、多民族国家である米国では、あらゆる宗教の人々がこの再会の祝祭を楽しんでいます。それでは、先の見えないコロナ禍に苦しんでいる米国人と世界中の人々に神様の豊かな恵みがあるようにお祈りして、この拙い筆をおかせて頂きます。



明星館2階第2礼拝風景(8/2より実施)

【投稿】

伝統教会への提言

塚本 秀夫

札幌教会に出席させていただき四年がたった。輝く伝統と高貴さにあふれた素晴らしい教会である。ここ同様戦前から脈々と続く教会が日本にはたくさんある。

これらの教会の多くは高齢化が進み、礼拝者の多くがお年寄りとなってしまっている。若い世代は毎週の教会活動とは疎遠になってしまっており、冠婚葬祭に出席するのみである。仏教の言葉を借りるなら教会の檀家化である。逆に新興のキリスト教会は若い人が圧倒的多数を占め組織が大きくなると離合集散をくり返し、つかみどころがない。支配するのは強大なカリスマとあやしい感じがする。一方しつかりせねばならない伝統教会は前述の如く檀家化し、将来的には絶滅危惧教会となってしまうている。強大な仏教や神道は五百年後でも生き残るであろう。然し脆弱なキリスト教会は「かつては日本にもプロテスタント信仰を持つ人々がいた。」などという残念なことに

なってしまうかもしれない。しかし、この悲惨な未来に対し、お年寄りが多いというのも、目に見えない強烈な力を私は感じてしまうのである。

過去に非常に尊敬した某教会の牧師は「私は若い人の信仰は全く信じない。お年寄りの信仰こそ本物である。」と言っていた。

戦前、牛込（今の新宿）の救世軍路傍伝道で絶叫のマリアと呼ばれていた祖母も訪れる若い聖職者たちに「私には時間が残されていない。」とよく話していた。時間が残り少ないというのはパワーである。クリスマスキャロルの悪党老人スクルージが一夜にして愛の人に愛えられたという奇跡のエネルギーでもある。よって信仰深いお年寄りに満ち溢れているのは恐るべきキリストのエネルギーを秘めていることになる。キリストの命令は次の二つである。一つは「我々の神は唯一である。」もう一つは「あなたの隣人をあなた自身の様に愛せ。」である。一つ目の戒めは伝統教会のキリスト者たちは守れる自信があるであろう。問題は二つ目である。隣人を自分同様愛する行いを誰でもできるかということである。ここにイエスの兄弟かもしれないヤコブ

の言葉がずっしりとのしかかる。「行いのない信仰は空しい」

この言葉が伝統教会の人々に新たな展開のエネルギーを与えるのではなからうか。

※米倉からのコメント

塚本秀夫さん、ご投稿ありがとうございます。私たちへの提言に耳を傾けて、同じ信仰を持つ同信の友として心したいと思えます。でき得ることなら私たちと一緒にご提言を實踐してくださいとこれに勝る喜びはありません。私は辞すに際してまだ語り残していることがあるのかもしれませんが、一言申し上げるならば日頃から申し述べているように無くならないものは多くない「ただ一つだけである」にこだわること、そして「行いと信仰は分離できない」こと、信仰は観念や思想でなく生活であることだと思っております。私たちに課せられている課題です。ルターがなぜヤコブ書を「藁の書簡」と言ったかの意味も併せて考えてみましょう。

「会員異動報告」

昨年度二〇一九年は札幌教会創立記念一三〇年の年でした。川畔の尖塔はイースター号のみの発行でした。二〇二〇年度は新型コロナウイルス禍の影響で例年の活動ができない状況で、教会活動は主として礼拝のみを継続している状況です。他の活動は祈祷会も各委員会も休会状態です。委員会は組織をしましたがこれからの在り方について模索している状態です。その様な中編集委員会は今号を号外号としてクリスマスに向けて発行することになりました。昨年度、今年度に受洗した方、転入された方、現住陪餐会員に復帰された方、逝去された方、転出された方の氏名をここに報告させていただきます。紹介も添えたいと願いました。が整わず氏名を掲載することでご理解ください。別な機会に紹介したいと思えます。

*受 洗

二〇一九年
六月九日 齋藤 涼平兄
十二月二十二日 花田 孝麿兄
十二月二十九日 中野 忠夫兄

*現住陪餐会員復帰

二〇一九年

九月一日 中平 恵子姉

(別帳会員から)

十一月三日 角田 成子姉

(不在会員から)

十二月一日 伊藤 照江姉

(別帳会員から)

*転 入

二〇一九年

四月十四日 有川 貞美兄

(鹿兒島鍛冶屋町教会から)

*逝 去

二〇一九年

七月十日 中村 勤兄 九十一歳

八月三日 木村敏雄兄 九十四歳

八月五日 野田義成兄 八十四歳

十月二十一日 本間フジ姉 九十三歳

十月二十九日 岡村信子姉 九十二歳

十一月九日 伊藤照江姉 九十三歳

十二月八日 松本芳子姉 八十一歳

二〇二〇年

二月 七日 佐藤武志兄 六十二歳

四月 七日 杉浦 忍兄 六十一歳

五月二十六日 桜庭知子姉 九十一歳

六月六日 工藤葉子姉 九十歳

七月二十七日 出葉巧子姉 八十七歳

*その他教会員・会員外で逝去された方々

二〇一五年

十一月十二日 山口純枝姉 九十四歳

二〇一九年

三月二十八日 土屋藤子姉 九十五歳

四月十日 鶴巻アキエ姉 九十歳

(別帳会員から)

九月一日 尾藤美恵子姉 九十五歳

(客員・北見望が丘教会)

二〇二〇年

十二月二十日 鈴木 寿氏 六十歳

一月十七日 黒澤榮子さん 七十一歳

*転 出

二〇一九年

三月三十一日 岡田 のぞみ姉

(室蘭知利別教会)

「編集後記」

今年度の編集委員会は、中原准一(長)石川律子・小谷和雄・山田光子・鷺澤明美・の五人です。どうぞよろしく願います。クリスマス前の一か月で発行するという異例の取り組みとなりました。(中原)

第二主日礼拝

(クリスマス合同礼拝)

2020年12月20日(日) 午前10時30分

説教 米倉美佐男牧師

司式 中原准一兄

奏楽 工藤晶子姉

招き

奏楽

招詞 ヨハネによる福音書 3章16節

讃美 242-4 一 同

交読 交読詩編46編 2-12節 一 同

み言葉

聖書 マタイによる福音書 1章 1-18節 (新約 2頁)

祈禱

讃美 258 一 同

日本基督教団信仰告白 一 同

説教 「神は我々と共におられる」

祈禱

応答

讃美 264 一 同

聖餐 81 一 同

主の祈り 93-5-A (週報にも掲載)

奉献 (献金) 感謝と献身のしるしとして献げましょう

讃美 64 一 同

派遣

頌栄 29 一 同

祝禱

奏楽

2020年クリスマスイブ 讃美礼拝 2020年12月24日(木) 午後6時30分

主題 「喜びを静聴す」

説教 米倉 美佐男牧師
司式 田中 勇 兄
奏楽 高杉 香苗 姉
聖書朗読 江口 ちひろ姉

前奏	「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」(A.クネラー) (讃美歌229「いま来たりませ」)	奏楽者
招きの言葉	イザヤ書40章 1-2節	司式者
聖書	イザヤ書 7章 14節	朗読者
讃美	「若きおとめは」(N.ルベーク) (讃美歌254「小鳥も飛び去る冬のさなか」)	奏楽者
祈り		司式者
讃美	252 羊はねむれり 1, 3節	一同
聖書	ルカによる福音書 1章 5-25節	朗読者
讃美	258 まきびとひつじを 1, 2節	一同
聖書	ルカによる福音書 1章26-38節	朗読者
讃美	「みつかいうたいて まきびとつどえば」(イギリス・キャロル) (讃美歌第二編216)	奏楽者
メッセージ	「お言葉どおりに」	牧師
祈り		牧師
讃美	261 もろびとこぞりて 1, 4節	一同
讃美	「さやかに星はきらめき」(A.アダン) (讃美歌第二編219)	奏楽者
讃美	264 きよしこの夜	一同
献金		当番
祈り		礼拝当番長
讃美	「ハレルヤ」(メサイアより/G.F.ヘンデル)	奏楽者
祝祷		牧師
後奏	「まきびとひつじを」(D.ウィルコックス編曲)	奏楽者

クリスマスメッセージ

クリスマスおめでとうございます。今年は主題を「喜びを静聴す」としました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で礼拝も今までとは同じにできない状態が続いています。イブ礼拝もキャンドル・サービスではありません。礼拝の終わりのハレルヤ・コーラスも歌うのをやめました。でもこのように礼拝を献げることができることは感謝です。

聖書の箇所は受胎告知と呼ばれる場面です。「おめでとう」、天使ガブリエルのお告げをマリアが聞いた時、彼女は戸惑い、不安を感じました。無理からぬことです。あり得ないこと、あつたら喜べないことを告げられたら、誰しもが考え込んでしまいます。さらに、み告げは「恐れるな」加えて「あなたは神から恵みをいただいた。」ふざけるなです。何が恵みか。とんだ災難ではないですか。しかしです、耳を澄ませて、心静かに恵みとは何か、に耳を傾けてください。あなたには聞こえますか。最後のところに答えが記されます。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」恵みとは自分の思いを越えて、神のみ言葉に聞く姿勢を持つ時に添えて与えられる、そこに気づけることなのです。ハレルヤ!